

裏面の話題

みんなの居場所の裏面も、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年7月19日(火)

みんなの居場所

【雑感】乱読は「OK」なのか？

先日、雑読について話を紹介させていただきました。「小学生や中学生は乱読をすべきだ」「つまり、読書のジャンルを広く、物語や説話だけでなくエッセイや詩集、果はマンガまで、とにかく色々な分野の文章を、乱読してよい」というものでした。よく、大人は「マンガがよい本字がよい」と書いてある小説なんかを読みなさい、などと子供達に言っている方がいます。その雑読の目的は、逆効果と紹介されてきました。その根拠は、読書家などの場合、マンガがたまたま読んでいるという事です。確かに私自身もたまたま読まれました。それが高じて読書が趣味になったのもありますが、その後の読書は、果して読書が趣味になったという関係で、一時期「下カマン」しか読まなかった。しかし、そこから色々なマンガを読んだりしてきます。例えば「釣りキチ三平」。私は本格的に釣りをしたことはありませんが、「このマンガから大自然への畏怖や大切さを感じ取る」ことができず、「おっ、面白い」も読みました。実在した人物であり好きな歴史上の人物が故に、のめり込めて読みました。実は、この二つのマンガは社会人になって文庫本サイズを大人買いしてしまいましたが、読書仲間に入る、私たち教師は「いい」マンガはだめだよ、「なを」言っています。児童のあたらしく判断すべきなのではないか。児童の学習の果実を細かく分析し、家庭環境、地域の願いなどを探る、スクリーニングして、子供達に合った、最善の読書環境を提供したいものです。そのためには、乱読も良いよな気がしてしまっています。

【雑感】仕事をめんどくさいと思わない

相手があるという教職の現場において、子供達や保護者、地域の方々と連携し、教育効果を上げていくためには、私たちの教師が最低限するべき事を書いてみます。これは教師だけでなく、大人が守るべきルールであり、子供達に行動してほしい必要がある。子供達は大人の姿を、善悪の判断基準を作りますので、非常に大切なことです。

【時と場合】

時間を守るという事は、社会人として基本中の基本です。我々大人は子供達に「時間を守りましょう」と指導していますが、我々が守るべきは、指導したことの説得力に差が出てしまいます。大人の言動に説得力を持たせるためにも、「時を守る」とは重要なことだと思います。

【場と相手】

学習環境をきちんと整えることが、子供達の学習に対するモチベーションにつながります。目の前にはきちんと整えられた教材教育があれば、子供達は「頑張ろう」という気持ちになります。家庭では如何でしょうか。無駄を省き、きちんと整理整頓すること、仕事や勉強の効率を上げるための一番の近道だと思います。

【役割と責任】

社会人として働く場合、目の前には人がいません。私達教師の仕事には、児童生徒、保護者の皆様がいらっしゃいます。私達教師は子供や保護者の皆様の願いを聞き取り、最高の教育を提供しなければなりません。それが相手に対する礼儀だと思います。責任をもち、学校での場面だけでなく、人とのつながりの中で、相手を尊重し、礼節を重んじた接し方ができれば、多くの問題は回避できます。こういった意味から「礼を返す」とは大切なことです。

【言葉】 謙虚、感謝、礼儀

この4つを忘れると、人間としての成長はあり得ません。お陰様で自分が成長させて頂いていることを忘れないようにしたいものです。私は自戒の意味で、前記4点について、大人としてどうしているか、自ら検証しています。

シリーズ「自分を語る」その6

龍田小学校での臨探としての勤務が始まり、毎日充実した生活でした。採用試験に向けても、それなりの努力を続けていました。通信教育の講座を受講しながら、ピアノは幼馴染のピアノの先生がいて、その子から教えてもらっていました。このピアノの練習は、筆記試験の勉強よりも苦しかったです。この幼馴染のレッスンはスパルタで、週二で指導を受けていたのですが、練習をしていないと分かるくらい帰っていました。あのね、澤田君、これは練習をする場所ではないの、レッスンの場所。練習をしてから来てよ。当時の私は楽譜が読めないものだから、練習の仕方が解らないのです。音楽学校の先生から教われないのです。その先生が怖くて、中々話しかけられないという状況でもありました。今だから話せるのですが、当時同級生のJGの先生、音楽学校の先生が怖かったです。

2回目の採用試験です。あの頃の準備を行っていました。毎日の時間は机に向かっていた。これが習慣になると、意外と楽なもので、毎日をこなして寝ていくという状況でした。また、通信教育の講座の模範試験に向けて答えを書いているという状況だったので、毎回確実に新しい知識を身に付けていっていました。

いよいよ2回目の教員採用試験本番です。当時の試験は一次試験で筆記の他、ピアノ、水泳、器械運動、集団討論等がありました。一次試験の結果は、確りの月の半ばに発表されたと思います。同じ学校で臨探をしていた仲間が話していました。「合格の場、封書の厚さが違いました。私はその年を諦めていました。」

発表後、勤務終了後、投げやりな気持ちで私は運動公園にいました。職場の仲間と一緒にダンス愛好会を作った思い出です。何かやっている気持ちはあっても、紛れもない気がしました。仕事の後にダンスです。今では着るならいいよ、あのね、あのね、あのね、あのね、今こそ復活しなければならぬなと思っています。

あの、話を元に戻して…。2度目の採用試験は今年もまただと思っていました。それを忘れようという言葉を振りました。自宅には予想通り、教員委員会からの封書が届いていました。どれ位の厚みがあったのでしょうか、家族しか知りませぬ？ (つひ)